

1. 障がい者の生活ニーズ実態調査の分析について

平成 28 年度調査時の分析(クロス集計)	今回調査の該当質問
① いやな経験の内容 × 場所	問 32
② 今の暮らし × 災害時に困ること	問 4、28
③ 今使っている支援 × 今後使いたい支援	問 30
④ 今使っている支援 × 今後使いたい支援 × 支援が違う理由	問 30、31

(参考)平成 28 年度調査の分析結果
① 場所に限らず、差別や嫌な思いの内容として「じろじろ見られたり指をさされる」が突出して多く、次いで「助けて欲しい時に助けてもらえない」、「無視される、仲間はずれにされる」となっている。 ① 場所別では「学校」で嫌な思いをしたと答えた人が最も多く、次いで「電車・バス」、「お店」となっている。また、「職場・仕事」や「役所」よりも、「病院・施設」の方が上回る結果となった。 ① 場所別の特徴としては、「学校」では「無視される、仲間はずれにされる」が最も多く、「職場・仕事」及び「役所」では「助けて欲しい時に助けてもらえない」が最も多い回答となっている。 ① また、少数ではあるが「学校」以外の全ての場所において「入居・入店・乗車などを拒否される」との回答をした人が居る(95/3,075:約 3%)。 ② 暮らしの形態に関わらず、災害時に困ることでも多かったのは「安全な場所に一人で移動できない(単独避難)」であり、次いで「障がいのある人を対象とした福祉避難所が少ない、情報がない(福祉避難所・情報)」であった。 ③ 人と話をする時に支援を必要としている人が、今後使いたい支援として最も多く選んだのは「IT を活用したソフトやアプリ」であった。一方で、手話通訳や筆談・要約筆記を使っている人の半数以上は、今後も同じ支援を必要としている。 ④ 今使っている支援と今後使いたい支援とが違う人の理由は「今後使いたい支援の方が便利」が半数以上で最多であった。その他「身近な人が支援してくれる」、「使ってもちゃんと言いたいことが伝わらない」が主な理由となっている。